

なるほど! 知っ得

アメリカ

医療豆情報

利他心を持って変異株に警戒を!の話

現在デルタ変異株の猛威が私たちの生活と命を脅かしている。一時の新規感染者が4千人台までだったのが今では8万人台まで急増し、従来株から変貌を続けるウイルスを敵に私達は苦戦をしており、今日もどこかで尊い命が亡くなっている。

全世界がワクチン不足で悩まされる中、それと対照的に、予約不要、且つウォークインでワクチン接種が可能な米国。デルタ変異株の猛威と伸び悩むワクチン接種率、そして世界のワクチン供給不均衡にとても心が痛む……

手洗い、うがい、社会的距離の確保、ワクチン接種など、ウイルスから身を守る方法があるが、コロナ規制が緩んだ昨今において一体どの位の人々が変異株に対して警戒しているのだろうか? 再び防疫対策を強化すれば多くの人々がそれを歓迎しない。新型コロナウイルスがあたかも消えたかのように、感染対策を無視した

行動をとり、あたりまえのように過ごしている姿を目撃すると私は恐怖心を感じる。

ウイルスを軽視する者。マスク着用を拒否する者。社会的距離を保たない者。そしてワクチンを打たない者などだ。

今、社会は分断している。この深い溝の影響で医療従事者はウイルスとイタチごっこを強制的に強いられている気がしてならない…… 高熱と呼吸苦の陽性患者達が病院に運ばれ、手当てをする医療スタッフは途方に暮れている。最近の統計によれば、**今増えている全米の感染者の殆どが、ワクチン未接種者なのだ。**

金品などのインセンティブを設けるなど、各州で様々な接種努力を促しているが、現実には思うように促進が進まず、接種率は鈍化している。特に完全接種率が4割程度にしか満たないクラーク郡ではデルタ変異株の全米ホットスポットとみなされ、危機が到来している。

ワクチン未接種者の中でウイルス感染が蔓延し、新たな変異株の誕生を助長させているのが懸念だ。敵は更に恐ろしい姿へ変貌を続けている。

ワクチン接種への抵抗があるのは否めない。そもそも医療に「絶対」という事は無いからだ。どんな検査法にも偽陽性や偽陰性と言った落とし穴がある。手術や薬物療法等にも必ずリスクがある。普段何気なく飲んでいる降圧薬やコレステロール薬にも命に関わる重大な副作用がある。コロナワクチンも決して例外ではない。「絶対」という保証がない医療では治療がもたらす恩恵とリスクを常に天秤にかけている。しかし真新しいコロナワクチンにおいては副反応や死亡例ばかりが目されがちだ。挙げ句の果てにはワクチンの偽情報が多く飛び交い、一般の人々からしたら一体どれが真実でどれが虚実なのか、全く見分けがつかない酷い有様だ。

アメリカに移住した日本人であれば生涯一度もワクチンを打ったことが無いという人は恐らくいないであろう。そもそもワクチンとは一体誰のために打つのであろうか? もちろん自分のためなのだが、それだけではない。ワクチンは個人の免疫獲得だけに留まらず、大切な家族や友人、そしてコミュニティーにウイルスを拡大させない意義がある。

心のベクトルを自分だけに向けるのでは無く、どうか周りにも向けて欲しい。利己的な行動は自らの心の眼を曇らせ、己の倫理観が鈍り問題点にも気付かなくなってしまう。長続きするコロナとの闘いに自己中心的な行動は障害でしかない。

ワクチン未接種の方はワクチン接種を心より懇願します。他者への思いやりを大切にしながら変異株への警戒を願います。